

よくある質問 Q & A

Q1 「子ども等多世代の居場所」って？

A. 多世代型子ども食堂、多世代交流イベントなど、子どもから大人まで誰もが利用できる場所や、学習支援のことです。

Q2 多世代型子ども食堂って？

A. 無料または低額で、食事と安心できる場所を提供しています。子どもひとりでも、親子でも、誰でも利用できます。

Q3 多世代交流ではどんなことをしているの？

A. 料理やお菓子をみんなで作ったり、スポーツや体操、季節のイベントなど、多世代の皆さんと一緒に楽しめるイベントを行っています。

Q4 学習支援では、なにができるの？

A. 宿題のお手伝いや、ドリル・ワークを使った指導、進路相談などを行っています。

Q5 利用するにはどうするの？

A. 難しい手続きはありません。開催時刻になったら気軽に立ち寄るだけで大丈夫です。
※一部利用方法を定めている団体もあります。

Q6 誰でも行っているの？

A. もちろんです。元々は子どもの生活支援から始まりましたが、今では誰でも参加できる「みんなの居場所」です。
※一部利用条件を定めている団体もあります。

Q7 始めたいときは？

A. 子ども等多世代の居場所を始める際には、市への申請などは不要ですが、食事を提供する場合は保健所への届出が必要です。立ち上げや運営を支援する民間団体もありますので、まずは子ども未来課へご相談ください。

あなたの「やりたい」を応援！ ～子ども等多世代の居場所づくり支援事業補助金～

市では、多世代型子ども食堂事業、多世代交流事業、学習支援事業など、子どもから大人までが安心して集える「居場所づくり」に取り組む団体や個人へ補助金を交付しています。
新たに活動を始めたい方は、ぜひご活用ください。
※補助金には要件があります。詳しくは、子ども未来課までお問い合わせください。



市ホームページ

1

多世代型子ども食堂事業

- ・月1回開催（毎月開催が必須）
開催月数×15,000円（年度上限180,000円）
- ・月2回以上開催（毎月開催が必須）
開催月数×15,000円（年度上限360,000円）
月2回目以降は1回ごと5,000円加算
※加算は月3回まで

2

多世代交流事業

- 開催月数×10,000円（年度上限120,000円）
※毎月開催が必須

3

学習支援事業

- 1) 開催回数×10,000円（年度上限120,000円）
※毎週1回1時間以上の開催が必須
- 2) 学習支援員1人につき1日上限1,400円
（1団体あたり年度上限436,800円）

4

新規設立支援事業

- （①～③のいずれかの事業を新たに始める場合）
- ・新規設立（上限150,000円）※1回限り
 - ・子どもの居場所空白区域（令和8年6月1日現在、東小学区、埼玉小学区）に新規設立（上限450,000円）
※最初に事業を実施した団体などのみ（対象区域ごとに1団体のみ）

～「居場所づくり」に取り組む団体への支援を考えている方へ～

居場所づくりに取り組んでいる団体などの応援（寄付金や食物の寄付）をしたい方は、市内の各団体を取りまとめている行田こども居場所ネットワーク・おしまる（090-7814-9615）、または、応援したい団体へ直接ご連絡ください。



問い合わせ 子ども未来課手当て・給付担当（内線297・292）

学校でも家庭でもない「居場所」を



学習支援事業
一般社団法人みずたま 代表：小熊永枝さん

地域に児童養護施設での経験を

ー 永枝さん ー

長年、児童養護施設の管理栄養士として勤務しています。施設の子もたちが安心して暮らしている一方、施設の外に目を向けると、小さいけれど切実な困りごとを抱えている親子が身近にいる現実を知りました。改善傾向にあるものの、今なお9人に1人の子もが貧困状態にあるという統計もある中で「地域に私たちの経験を活かさないか」と考えたことが設立のきっかけでした。

今は亡き同僚と10年以上前からこの団体の立ち上げを構想していました。彼女の想いを受け継いで、現在は社会福祉士、管理栄養士、保育士の資格を持つメンバーとボランティアで活動しています。普段はカフェとして営業しながら、子ども食堂や学習支援などを行っています。子ども食堂では、ふたを開けたときに嬉しくなるカフェらしいお弁当を提供しています。

自発的に学習ができる場所

ー 憧さん ー

現在、小学校2年生から通信制高校の4年生まで来てくれています。かつて塾講師として受験のプレッシャーに追い詰められる子を数多く目にしました。子どもの成長には、単なる知識の詰め込みではなく、成果を急がず、否定せずに受け止め、集中している時はそっと見守る、安心して「分からない」と言える環境が重要だと感じています。

「家では勉強しない」と言われていた子が、ここに来ると集中して勉強していることもありま。また、進路や学校生活の相談をしたり、アルバイトに行く前に少し顔を出したりする子もいます。保護者から子育ての悩みを相談されることもあり、学習支援の場でありながらも、子どもたちや保護者にとって気軽に立ち寄れる居場所にもなっています。



小熊 憧さん

「地域の窓」を目指して

ー 永枝さん ー

一番のこだわりは「子ども食堂らしくない場所」にすること。誰もが気軽に立ち寄れるカフェの延長線として、全面ガラス張りの物件を選びました。外から中の様子が見えることで、親や地域に安心感を感じるとともに、閉ざされた密室にはせず、外の光とともに地域社会へ触れる「地域の窓」になりたい。そういう思いがあります。

我が家のように立ち寄り、勉強だけでなく、日々の些細な出来事を話してくれる姿や、お弁当の待ち時間に地域の方々同士で自然と話し始める姿を見るとやりがいを感じます。

行田市の玄関口ともいえる駅前のこの場所をきっかけに、地域の交流や支援がもっと広がってくれたらうれし。ぜひ、ひと休みするよう。な気持ちで気軽に立ち寄ってください。



「2ND BEST」には、秩父鉄道 行田市駅にあるここを入りに、市内で自分にとっての一番の場所を見つけてほしいというメッセージが込められています。

